

体内静電気を抜けば病気は怖くない！

静電気によってトリガーポイントができる。

静電気を抜くところがとれる

でも、大事なところだから、少し頭を使ってみましょう。栄養素として必要なミネラルを必須ミネラルといい、プラスイオンはカルシウム、リン、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、亜鉛、クロム、コバルト、セレン、鉄、銅、マンガン、モリブデン、ヨウ素、マイナスイオンとして硫黄、塩素の現在16種類とされています。これらが相互に連携し合い効果を出しています。骨、歯以外のところでイオン化していないミネラルは、生体にとっては異物ですから、体外に排泄するか、あるいは外に出ないように包み込みます。イオン化していないミネラルを異物として筋肉が包み込んだ状態をトリガーポイントと考えています。

「トリガーポイント？ 聞いたことあるなあ」

「肩がこっているとき、指で押したり、指圧してもらおうと、痛いけれど気持ちのええところがあるやろ。そこが、大まかにいうと、トリガーポイントや」

細かい部分は専門書を見ていただくとして、トリガーポイントについてももう少し触れておきましょう。私の友人にトリガーポイント療法の権威である関西医療大学の黒岩共一教授がおられます。彼はトリガーポイント研究会代表であり、痛みを根本的に治すにはいかにすべきか議論をし、お互いに研鑽し合ってきた関係です。

肩こりを思い出してください。肩の筋肉にはコリコリとした硬い部分ができます。このコリツとした部分を筋硬結といい、血行不順に陥った部分です。これがトリガーポイントの第一段階です。ストレスなどが続くと、その中にヌルヌルとした感覚の細かい索状硬結ができます。それが、小さなトリガーポイントと単純に考えてください。トリガーポイントが形成された局所には鳥肌、立毛、発汗、皮脂の分泌、血管収縮による冷感、浮腫などの交感神経緊張の現象が認められ、そのうちに、トリガーポイントから少し離れたところにも痛みが生じるようになるのです。

つまり、に血液がスムーズに流れていたら反応しない物質も、停滞すれば反応する可能性が増し、その結果、炭酸カルシウムやリン酸カルシウムなどが作られ、細かい索状硬結ができるのです。こりのもとをなくすには、俗にいう、鍼灸、あんま、マッサージなどの外的な応力を加え、体液中にリン酸イオンとカルシウムイオン、炭酸イオンとカルシウムイオンなど、プラスとマイナスの電価をもたせ血液に戻して消滅を図る必要があるのです。

このときに、私は静電気に関係しているのではと考えています。特に、鍼は大いに関係があるでしょう。針はステンレス芯が多く使われ、電気の良導体でトリガーポイントに接触させることで、静電気を抜いてしまい炭酸カルシウムなどの固体をイオン化し、体内に戻すことを促進するのではないのでしょうか。おおむねここで解決します。鍼灸大学の学生さんは黒岩教授を訪ねて、ぜひ教えを請うてください。それでも血液に戻らない場合は、ペインクリニックの出番です。トリガーポイントへの直接的な注射というこ

とになります。炭酸カルシウムやリン酸カルシウムなどをイオン化する目的で、まず生理食塩水を注射し、パスカルの原理、つまり平等に掛かる圧力と生理食塩水でトリガーポイントの消滅を図ります。これは少し痛いので、局所麻酔薬の使用がいいでしょう。注射後の痛みをなくし、疼痛回路を寸断するという点でより効果的です。また、麻酔薬は血管拡張作用があるほうが望ましく。一般的に0.5～1.0%のプロカインが用いられます。これは筋肉に対してもっとも副作用が少ないことも知られています。プロカインの主成分は、塩酸プロカインという塩酸塩なのです。これによって、トリガーポイントがイオン化し、体液循環に戻されやすく、消滅しやすくなります。

筋肉を緩めると、たいていの不快な症状はとれていく

「おまえさあ、よう勉強したから、ご褒美に元気にしたるわ。一回、田舎へ帰って来いよ」

ひよんなことから、体内静電気の講義をO君にすることになりましたが、そろそろ終わりに近づいてきました。最後の講義はふるさとで昔話をしながらやってみたくなって、O君を誘いました。彼も、50歳を過ぎて、体にもがたがきているでしょうから、ついでに私の方法でリフレッシュさせてあげるのもいいと思っています。

数日後、O君は私の研究所を尋ねてきました。鈴鹿市の北のほうにある近鉄名古屋本線の各駅しか止まらない小さな駅から歩いて5分くらいのところですよ。初めて私の研究所を見たO君、その絢爛豪華な(?) たたずまいに開いた口がふさがりません。

「ここか？ おまえの研究所は？」

「そうや、立派やろ」

「立派って、おまえ。これ、コンテナやんか」

そうです。私の研究所にやって来た人は、みんなびっくりします。ピンクに塗ったコンテナが畑の真ん中にドカンと置いてあるだけですから。

「あのな、俺は、研究にはお金をかけるけど、場所はどんなところでもええんや。建物にお金かけたら、それを考案品に上乘せせなあかんやないか。雨露がしのげたらそれでええんや。建物と研究とは関係あらへん」

そんな持論で長年やってきていますし、いくらお金持ちになっても、私はその持論を崩す気はありません。

「DVDは見たな」

私は、患者さんの治療前と治療後、ずっとDVDに記録してきました。そうしないと、「こんなによくなった」といってもだれも信じてくれません。たとえば、体を支えられてやっと歩いてきた人が10分後にはスキップして帰っていったとしたら、それを口だけで伝えられても、とても信じられません。でも、DVDで見せられたら、なかには、「サクラと違うか」とか「映像に細工してるんと違うか」と疑うひねくれ者もいるかもしれませんが、ふつうは信じるでしょう。私は、講演でも学会でも、可能ならDVDを見てもらって、実態を知ってもらったうえで、話を聞いてもらうようにしています。

治療を受けたいという人も、まずはDVDを見てから来ていただいています。ちなみ

に、私は治療費は一銭ももらっていません。どんなにひどい症状の人がよくなろうと、無償です。ただし、そんなことをやっていたら20年さきまで予約が埋まったことがあって、これではこちらの体がもたないと、いまは治療というより、健康のための研究や啓蒙活動をして、私が手をくさなくとも自分で治せるように指導をするようにしています。この本も、啓蒙活動の一環だと思ってください。毎朝夕に、地面に手をつけるだけで体調がよくなるなら、やったほうが良いと思いませんか？

病院や治療院へ行く前に、1週間でも2週間でも続けてみてください。それでよくなる人だけが、専門家の治療を受ければ良いと思います。健康なうちからそれをやれば、病院へかかる人は激減するはずですよ。

O君も、ふだんからあまり節制はしていないようで、けっこう体に歪みがあります。私の治療は激しいですから絶叫が付きもので、O君も終わったときは涙を流していました。治療の方法は、説明してもだれもできないことなので、はぶかせてもらいます（息子には継承させたつもりでいます）。私は、体の筋肉群が緩むことで不快に感じていたほとんどの症状が改善されていくと考えています。ですから、筋肉をいかに緩ませるかを主眼に置いて治療をしたり、指導をしています。このとき、力技で筋肉を緩めるというようなこともしますので、絶叫が起こることもあるのです。ただ、磨きぬいた技ですので、危険はいっさいありません。終わった後の筋肉が緩んだ壮快感は、治療を受けた人でないとわからないと思います。逆にいうなら、病気とか不快な症状というのは、筋肉が緊張・収縮することで起こってくると考えています。

「筋肉が緊張するとどうなる？」

「体が硬くなる」

「そのとおりや。そうすると、血管はどうや？」

「血管も縮むのと違うか」

「そうや。血管が縮むとどうなる？」

「そうか、静電気がたくさん発生するわけや」

そういうことです。前章でお話したように、筋肉の伸縮にはカルシウムイオンがとても重要な働きをしています。筋肉についている筋小胞体というところから、カルシウムイオンが放出されると筋肉が縮み、カルシウムイオンが戻ると筋肉は伸びます。静電気が多くなると、このカルシウムイオンが筋小胞体に戻れなくなって、筋肉が縮んだままになります。

ここで悪循環が発生します。静電気が増える→筋肉が縮んだままになる→血管が縮む→静電気が増える。これをくりかえして、筋肉はどんどん硬くなってしまいます。肩こりから始まり、膝の痛み、むくみ、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎など、とにかくさまざまな病気につながります。お腹をちょっと押すだけで「痛い」と大声をあげる人がいますが、そういう人は内臓まで硬くなってしまって、内臓機能はかなり低下していて、すでに病気になっているか、病気目前という状態です。がんになる恐れもあるといえます。

この悪循環から脱出するには、ストレスを少なくすることが第一の方法でしょう。その次にやってもらいたいのは、とにかく筋肉をもむことです。筋肉がこったところには、

前にも述べましたが筋硬結というコリッとしたところがありますので、それを丹念につぶしていきます。一時的なもみ返しが出る場合もありますが、それでも、もんでください。できるだけそっとやるにこしたことはないのですが、少しきつくてもかまいません。トリガーポイントができてしまうとなかなか消すのは大変です。しかし、続けていれば必ず、筋肉が緩んで、血流がよくなり、さまざまな症状がとれていきます。そして、もちろん、同時にやっっていかなければならないのが、「静電気を抜く！」

O君が勢いよく答えてくれました。そのとおり。100点満点です。